

令和3年度  
矢板市学校支援  
ボランティア  
講座通信



## できることから

第6回 ミシンを操作しよう  
～トートバッグ作りを通して～

### 大人だってできると嬉しい！

### 子どもたちに感じさせるには？

第6回の矢板市学校支援ボランティア講座は、安沢小学校の家庭科ランチルームをお借りして、前回に引き続き、実際にミシンを1人1台操作しました。

ミシンに不慣れな方に対して、慣れている方が自然にサポートする場面が多く見られ、実際にボランティアとして接する立場、ボランティアから支援を受ける立場で互いに学び合える受講生のすばらしさを感じました。

自分の力で完成させることができたときの表情は、本当に素敵なものでした。いくつになっても、挑戦してやり遂げたときの嬉しさは大きな力になります。子どもたちに対して、ボランティアとしてどのようなサポートが必要なのか考え、視野を広げたことが、次回のボランティア実習につながると確信しています。



### 前回欠席もなんのその！慣れた手つきでスイスイと

第5回の講座に出られなかった方も数名いましたが、普段から使われている方はどんどんと工程を進めていました。

こうした技能を子どもたちのサポートにつなげるにはどうすればよいのか考えながらもすばらしい作品を仕上げていました。

地域にはこうした頼もしい方がたくさんいるのですよね。

### 失敗に次ぐ失敗…あきらめない心で嬉しさ倍増！

受講生とともに、生涯学習課の担当者も今回トートバッグ作りに挑戦させてもらいました。受講生に教えてもらいながら、ミシンで縫い進めることがこれほど楽しく嬉しいことを感じました。しかし、思わぬところで縫ってはいけないところを縫ったり、曲がったりして、何度も糸を切り、やり直しました。心が折れそうになりながらも、ようやく完成した時の嬉しさは格別でした。



## 第6回 みなさんの声 どーんと紹介

今回は2回目で、トートバッグが完成した。自分の力でできるのは嬉しかった。まだまだ基本操作、作る手順など講座等を通じて学ばないといけないと思う。



今回は、作品の作り方がわかっていましたので、指導の方に入りました。初めてミシンを手にした方、貴下の仕組みを覚えて子どもたちと向き合うことが一番なのかなと思いました。

ミシンの技能+完成のイメージをもたないとミシン操作を含めて設計図が作れないことが分かった。

子どもたちの最初のイメージ、そしてでき上がったときの感想を大切にしないと、意欲や喜びをもたせられないと感じた。



集中してつくることがとっても楽しいと感じたので、子どもたちが集中して取り組めるようサポートしたいと思いました。

ミシンは自宅で自己流でやっていたので、基本的なこと、まち針のさす方向やアイロンのかけ方、印のつけ方、旧型のミシンの使い方などが学べて本当によかったです。

自分はミシン操作の手順を理解しているので、子どもたちの不安に寄り添ってあげられるとは思いますが。

でも、やはり事前に作り方を知ってほしいと思います。



今回はトートバッグを作りました。初めてのミシン操作でしたが、自分なりによかったですと思っています。

ミシンの便利さにドキドキ、糸のかけ方にドキドキ、やってみれば楽しい。もうチョット若くなりたい

自分の作品ができるのは嬉しい！

子どもたちもそんな気持ちを持てるような指導や見守りができたらと思います。

ミシンの操作がまだまだまならぬので、そこを何とかしていきたいと思っています。

トートバッグを完成させることができました。分からない人にわかりやすく教えることが大切で、難しいと思うこともありましたが、とても勉強になりますし、完成した喜びも感じることができました。



前回よりはスムーズに作業できたと思います。アイロンを用意してもらったのでやりやすかったです。自分で作るのはできるけど、子どもたちのお手伝いをするのは難しいかもしれないと思いました。

作品を作る際に、しつけをするのではなく、アイロンをかけ、ぬいやすいようにすること、まち針がしつけの重要な役割をすること、まち針を外さずに縫うことを知りました。

簡単にわかりやすく教えることが大切だと思いました。

